表　　紙

〈左〉屋久島の豊かな森林（一湊川流域）＝屋久島照葉樹林ネットワーク提供
〈右〉縄文時代のかごの復元に使うムクロジ材の伐採＝あみもの研究会提供

トレンド・レビューの前ページ

屋久島で確認された希少なヤクシマヤツシロラン＝屋久島照葉樹林ネットワーク提供

裏表紙の裏

〈上〉屋久島の世界自然遺産地域に近い楠川流域調査
〈下〉屋久島で確認された希少なヤクノヒナホシ＝いずれも屋久島照葉樹林ネットワーク提供

裏 表 紙

〈上〉2000 年後半にカナダで伐出された住宅用材。虫害による伐採増で資源量が減り、第 3 次ウッドショックを緩和できなかった
〈下〉2000 年代後半当時のカナダの新興住宅地＝いずれも立花敏氏提供

あとがき

森林や環境の問題に携わる研究者とジャーナリストでつくる「森林環境研究会」は、「森林文化協会」の専門委員会である。新型コロナウイルスの感染拡大が続き、研究会の活動にも制約がかかるなか、年間の集大成として『森林環境 2022』を刊行することができた。

特集のテーマは「森とともにどう生きてきたか」。明治以前の時代に目を向け、人びとが森とどのように付き合い、そこから得た資源をどのように利用してきたかを捉え直した。はからずも 21 年、国連気候変動枠組み条約第 26 回締約国会議（COP26）は、産業革命前からの地球の気温上昇を 1.5 度に抑える努力を追求する、とした合意文書を採択した。世界で脱炭素化の動きが加速し、森林の重要性も増している。特集はまさに“温故知新”のアプローチで、立ちはだかる気候変動や生物多様性の損失といった課題を解決する糸口を探ることができたのではなかろうか。さらに「トレンド・レビュー」は新型コロナの影響にも触れ、ウッドショックなど足元の課題を掘り下げた。

この年報を通じて、森林文化協会が理念とする「山と木と人の共生」に向けての歩みが少しでも進むことを願う。

森林文化協会　宮崎　健

●森林環境研究会

青木謙治　（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
一ノ瀬友博　（慶應義塾大学環境情報学部 学部長・教授）
井上真　（早稲田大学人間科学学術院教授、東京大学名誉教授／座長）
鎌田磨人　（徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授）
黒沢大陸　（朝日新聞論説委員）
酒井章子　（京都大学生態学研究センター教授）
田中俊徳　（九州大学アジア・オセアニア研究教育機構准教授）
田中伸彦　（東海大学観光学部教授／座長代理）
野上隆生　（朝日新聞久留米支局長）
則定真利子　（東京大学大学院農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター准教授）
原田一宏　（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

●事務局（森林文化協会）

片桐さよ子
坂本修
高岡宏行
宮崎健
八幡慎一郎

（いずれも五十音順）

森林環境 2022　2022 年 3 月 15 日　第 1 刷発行

編著――――森林環境研究会
責任編集――――則定真利子＋鎌田磨人
発行者――――藤井龍也
発行――――公益財団法人 森林文化協会
東京都中央区築地 5-3-2　朝日新聞東京本社内　〒 104-8011
TEL 03-5540-7686　FAX 03-5540-7662
e-mail　info@shinrinbunka.com

制作・印刷・製本――三協印刷株式会社

©2022Shinrinbunka-kyoukai
Published in Japan
ISBN978-4-9980871-1-3